

新野東小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 基礎的・基本的な知識や技能を確実に身に付け、児童が自ら考え、判断し、表現することができる授業の実践
- 学校及び家庭での学習習慣を身に付け、粘り強く課題に取り組む児童を育成するための指導方法の工夫

校長

学力向上推進員

委員

校長
教頭
教務・研修主任
学 力 向 上

【各校の取組状況の把握について】

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○算数の学習では、自分の学習状況に応じて内容を自ら選択して、学習できるようになってきている。 ●初見の長文を読む経験が少なく、内容を読解することが難しい。	・基礎的・基本的な知識や技能を確実に身に付けることができる。 ・文章全体を読んで要旨を捉えたり、内容を正しく理解したりすることができる。	・知識・技能の習得状況を把握し、定着が不十分な分野の原因分析等を通して、授業改善を行う。 ・読書の時間に新聞を読む時間を確保する等して、色々なことに興味を広げ、読解力を向上させる。			

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○全校的な活動の場で、自ら発言できる児童が増えてきた。理由や根拠を明確にし、相手に伝わるような表現ができるようになってきた。 ●習得した知識・技能を活用し、感想や要約などを文章で表現することには、苦手意識がある。	・様々な相手や場面で、自分の意見を積極的に発表することができる。 ・学習の過程を通して習得した知識が、既習の知識と関連付けられ、感想や要約などの文章表現に生かすことができる。	・ＩＣＴの効果的な活用を検討し、タブレットや交流による協働学習ができる場を設定し、見方や考え方を広げることができるようにする。 ・引き続き言語活動の充実に取り組み、活動後に感想を発表する場を設け、根拠が明確になるよう自分の考えをまとめたり、表現の工夫をしたりすることができるようにする。			

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○友達の自主学習を見ることで、学習の仕方が分かり、様々な内容に積極的に取り組むようになってきた。 ○日頃から家庭学習に並行読書を取り入れたことで、平日の読書時間が増えた。 ●家庭学習に主体的に取り組むことができない児童が多い。	・自分の学習状況を振り返り、自らの課題を解決できるよう計画を立て、学習に取り組むことができる。 ・与えられた課題だけでなく、自分で課題を見つけて取り組むことができる。 ・教科の学習に関する本を読み、学習を深めることができる。	・自ら課題を見つけて家庭学習や自主学習に取り組めるように、やり方や支援方法を工夫し、教職員間で情報交換しながら更なる改善を図る。 ・読書の幅を広げられるように工夫しながら、読書活動の推進を継続する。 ・平日、週末の並行読書に、積極的に取り組ませる。			